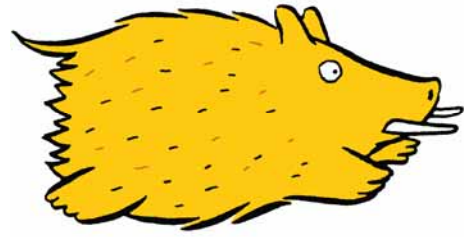
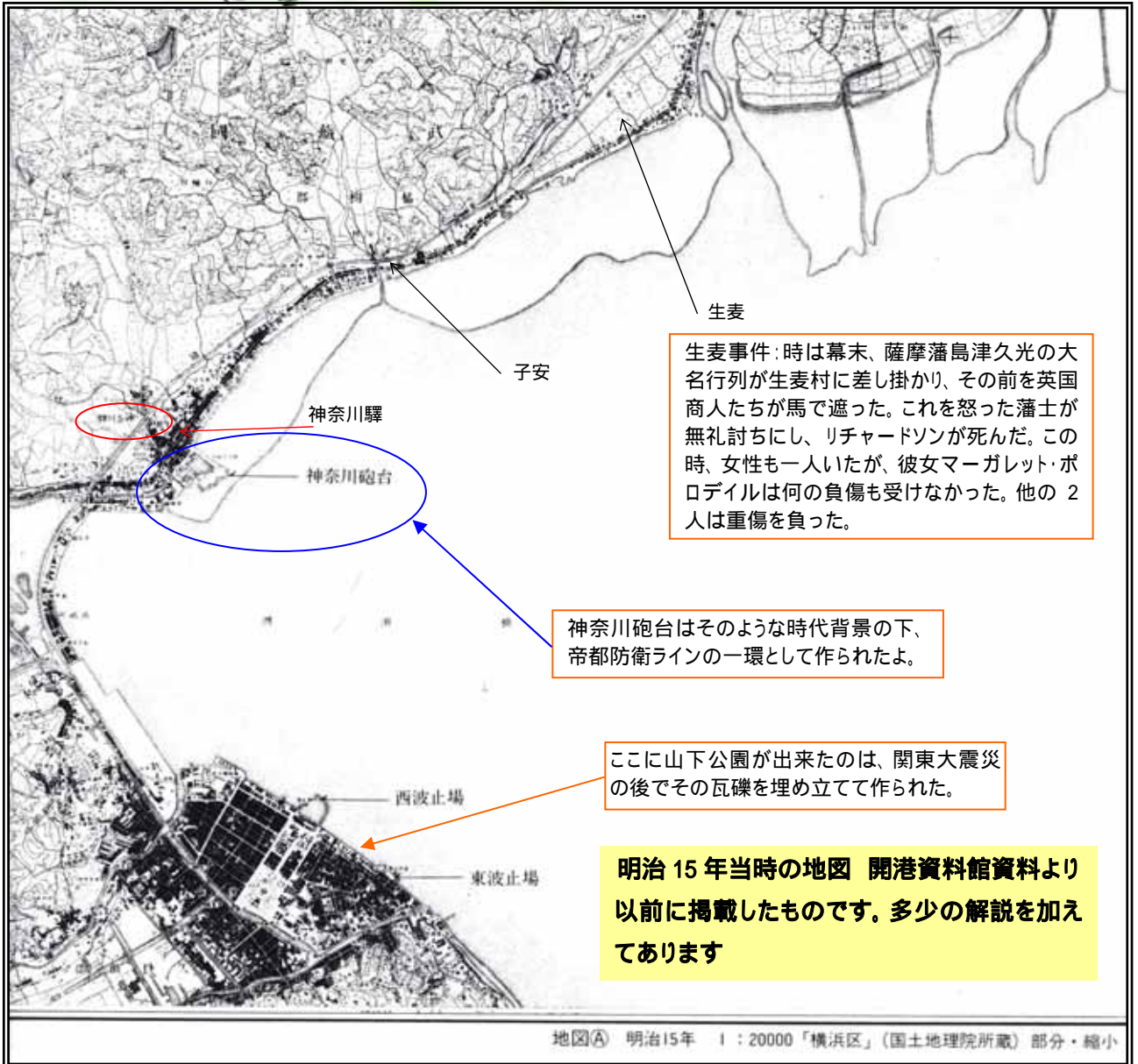


近所トマン隊かなあ



またまた蓋拾遺物語 by うさお



生麦

生麦事件:時は幕末、薩摩藩島津久光の大名行列が生麦村に差し掛かり、その前を英国商人たちが馬で遮った。これを怒った藩士が無礼討ちにし、リチャードソンが死んだ。この時、女性も一人いたが、彼女マーガレット・ポロデルは何の負傷も受けなかった。他の2人は重傷を負った。

子安

神奈川驛

神奈川砲台

神奈川砲台はそのような時代背景の下、帝都防衛ラインの一環として作られたよ。

ここに山下公園が出来たのは、関東大震災の後でその瓦礫を埋め立てて作られた。

西波止場

東波止場

明治15年当時の地図 開港資料館資料より以前に掲載したものです。多少の解説を加えています

地図A 明治15年 1:20000「横浜区」(国土地理院所蔵)部分・縮小

さて、本題のマンホールの蓋の拾遺物語を示す前に、前々回の神奈川宿近辺のお話を少し。鶴見区史や神奈川区史は大変地味で、史実を探ってみても大した事件はありません。神奈川の宿場は江戸時代には可成りの盛況だったようです。それに引き換え、今では有名な生麦村、横浜村は本当に辺鄙なところだったらしいです。生麦は小さな漁村でした。有名になったのは「生麦事件」が発生したからでした。写真家ベアトの写真にも本当に鄙びた海岸辺の片田舎でしかありません。生麦村は鶴見川が海に注ぎ込む漁師村で、採った貝殻で河岸や道路が真っ白になったのは、以前ご報告した通りです。

生麦事件やこの漁村については、取材済ですので、いずれ詳しくご報告したいと思います。

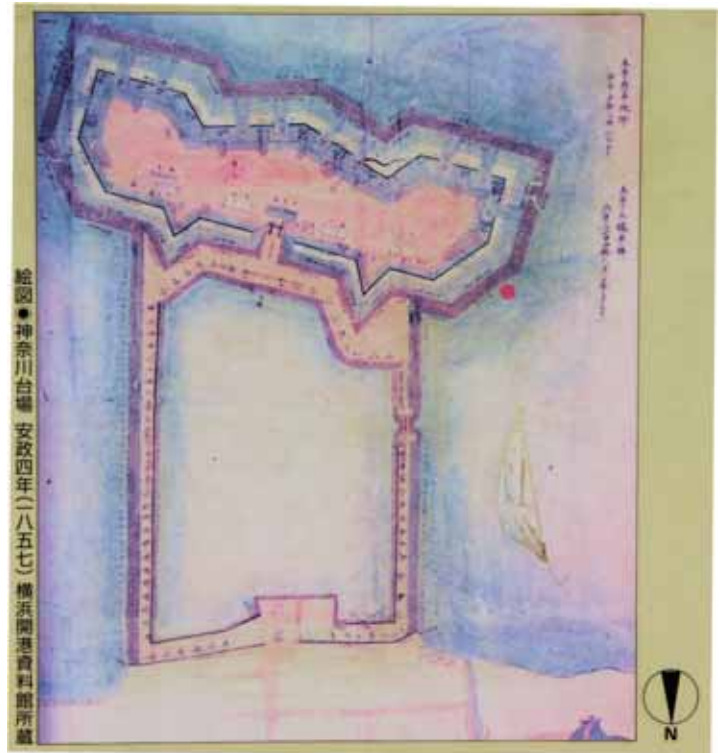


神奈川砲台は諸外国からの脅威に備えるべく、帝都防衛ラインに則り造られたものです。

現在残っているのはその石垣の一部だけ、石垣の上は搬送車の駐車場ですし、今、ライ隊員が立っているところも元は海、それを埋め立てられ民家が犇めいているところです。

右の地図の赤丸のところが、この碑がある処です。この碑に曰く。

「神奈川台場跡 安政六年（1859年）五月、幕府は伊予松山藩に明治、勝海舟の設計で海防砲台を構築した。当時の砲台は総面積二万六千余平方メートル（約八千坪）の海に突き出した扇形で、約七万両の費用と工期約一年を要し、萬延元年（1860年）六月竣工した。明治三十二年二月廃止されるまで礼砲用として使われたが、大正十年頃から埋め立てられ、現在では石垣の一部を残すのみとなった。」



一時期この碑のあたりは、貨物線の操車場となっていました。今でも貨物線のいくつかが残っており、倉庫や工場、市場などに引き込まれています。瑞穂埠頭編でお見せしましたね。

「神奈川の写真誌 明治前期」（金井圓、石井光太郎共著；有隣堂刊）と言う本に、明治の時代の写真が残っています。砲台が十四門ありましたが、当時の英国人に言わせると何の役にも立たない砲台で噴飯物だったそうです。



事実、砲台は一度も使われたことが無かったそうです。大正の時代には礼砲用のお台場としてのみ使われました。

ここでの人足たちの労働は過酷なもので、死に行こうか、お台場に行こうかと歌われました。石は伊豆から運び、土は神奈川宿から運んだものです。余談ですが、この地図の手前の陸地に神奈川本陣があり、東海道を挟んで青木本陣がありました。青木宿は今は青木橋商店街となり、通りには旧東海道の碑文が建っているよ。



神奈川台場

さて、家の裏山が開発されて700所帯くらいのマンション群が出来て久しいです。ここの住人は中流のサラリーマンがメインのようです。1所帯3人として、2000人が暮らしているのかな。これだけの人数は、私の町なら5町内くらい、賄っちゃいます。家の近所は下町で、今流行の下流なんだよ。昔から住んでいる人が多く平均年齢も高いよ。しかし、このマンションの開発で歩いている人の年齢層が若返ったように感じます。人口増加のせいかな、近所にサミットが建設されると言う。ご近所もちょいとトレンドになって来たぞ。でも、まだ本格的な喫茶店はないです。犬を連れて入れる喫茶店も欲しいぞ。犬連れは多分もっと先の話になるかな。

さて、朝、家の近くの交差点で必ず会う沢口靖子似の女性がいる。その落ち着き具合から結婚はし



裏山のマンション群



むにゃむにゃ、ライ隊員

ているようだが、見た目、きびきびして、キャリアウーマンって感じ。お洒落でスレンダーで、足が速い。あっと言う間に見えなくなってしまう。(うさおの粘っこい視線に気づかれたか…)

何しろ、スタート地点は同じなのに、駅に着くころには100mも離されている。コンパスの差か？やはり歩き方がうさおは、とどなのか？安定感を求め、踵から大地を踏み締めるように歩いているよ。(のっし、のっし)

え～、何が言いたかったかという、年齢を取ると体重を後ろに掛ける傾向があり、体重の増加と相関があります。また自律神経の失調もあり、片足立ちが数秒で終わってしまいます。全体重を支えるため、足の裏全体に重みを掛けるのでいつも足の裏が痛いんです。

昔は映画の立ち見が平気でしたが、今はできません。幸いシネコンなど、立ち見をさせる映画館は、無くなって来ましたが…。何が言いたいんだって？

ええと、今回のテーマはその重い足で踏んでも、びくともしないマンホールの蓋です。日出彦さんは美的マンホールの蓋を述べたいとおっしゃっていましたが、未だのようなので先にやっちゃいましょう。

そう思うと岡山に行った時、桃太郎の蓋に気づき、是非写真に撮ろうと思っていたのに、忘れちゃったことが悔やまれてなりません。ゆうこ宗匠(ゆうこりんとお呼びしちゃあ、まずいすよね…)、岡山に遊びに行く時がございましたらぜひ写真をお願いします。直ぐ、お隣の県ですし。確か大小合わせて、桃太郎、猿、雉が4～5種類あったと思います。岡山大学のある津山市のものは大変味気無いものでした。やはり蓋には絵がなくっちゃね！

と言うわけで、以前横浜と東京の蓋をご紹介しましたので、それ以外をご紹介します。以前のトマソン隊に少しずつ載せていますので、見た絵もあるとは思いますがご容赦くださいね。

まずは似て非なるものをお見せします。蓋じゃありません。道路の防護ポールです。

横浜：神奈川・浦島地区



平塚：大神地区

これは浦島伝説に基づく亀をモチーフにした歩道の車両防御用のポールです。オレンジのところは、反射のプリズムで車に注意を促します。

この周辺はヘボン博士の居住していたお寺さんや、アメリカやフランスの領事館だったお寺さんが、諸所に存在しています。



う～む、浦島地区のものに大変似ていますが、これはサッカーボールをモチーフにしたもので、同じように球形に亀甲マークですが、こりゃあぜんぜん違うものです。

平塚は湘南ベルマーレがあるところ。昔、フジタがスポンサーだった「ベルマーレ平塚」が母体だったところですが、不況の煽りでフジタが撤退、「湘南ベルマーレ平塚」になりました。中田英寿もいたよ。

横浜：馬車道



流石歴史の散歩道、横浜、関内は馬車道ともなると、馬車にちなんでチェスの馬（ナイト；騎士）です。そう言えば、昔、親父に話してもらった「横浜七不思議」の中に、馬頭屋敷というのがあり大変不気味に感じました。

その洋館に寝ていると、夜中にベッドが天井まで浮き上がり、そこに馬の血塗られた首が出てくるというもの。更にベッドは屋敷中を馬車のように駆けずり回るといふ、おまけ付だった。

では、いよいよ本題のマンホールの蓋、特選コーナーです。

岡山県：津山市法界院



おなじ岡山県でも岡山市は桃太郎の可愛らしい図柄なのに、隣の津山市の法界院はこんなに味気ない図柄の蓋でした。岡山大学があるところです。



岡山大学は横に長い大学で、何処まで歩いても目指す学部に通らず、近くにある教務課に聞いても「何処でしょうねえ？」って返事が…。

夏の時期だったので、てくてくと小一時間も歩いて大汗かきましたってさ。

途中疲れて足は舗装の段差に突っかかってさっ、転んじゃいそうでした。

名古屋：東浦・高浜付近



お仕事で由佳ちゃんちのほうに遊びに…いや、非常に厳しいお仕事をしに行った時です…。

図柄は大変面白いのですが、こりゃあなんでしょう。はげかな？海が近いせいか魚が跳ねてるのね！

こちらは小さい蓋。

はげは跳ねてないのね。





これは高浜市の蓋で、これこそ由佳ちゃんちに行った時のもの。図柄は馬に猿が取り付いているようにも見えますし、忍者赤影が乗っているようにも見えます。(由佳ちゃんち探訪記、参照のこと！)



こちらはそれの小さい用の蓋。同じ柄です。



大変革新的でアバンギャルドな図柄なもので、何をイメージされているのか良く判りません。

どこかを上手く読むと「高浜市」って見えてくるのかも知れません！



高浜市は市の花がきつと菊なんでしょうね。(外れたら御免なさいね！)

市のマークは明らかに「高」を変形させたもの。美術的な三州瓦が市で一押しの工芸品ともなれば、やはり下水道の蓋においておや、工芸的なものを持ってこないと調和ってものが取れませんよね。



その「高」のマークに緑の色が入っているように見えます。彩を与えたところが進歩してきています。

名古屋：梅坪



梅坪は愛知環状線が通っているところです。昨年の愛地球博では、トランスポーターとして重要な役割を果たし、万博八草駅とリニモ君をつなぎ万博を盛り上げました。

最近住宅も増えてきて、一時ほど「パーラー」と称するパチンコ屋さんは見かけなくなりました。

市の花は以前の述べましたように、向日葵でしょうか？



梅坪市の向日葵図柄から、期待して辺りを探したのですが、あまり近くにマンホールは見当たらずあったのはこんな味気ないものでした。

難しいなあ。こういったマンホールみたいなものは、市としても地味なものだからあまり予算もつかないんだろうな。

でも、そういうものに気付く市民も多いのだから、ちょっと工夫を凝らしてもいいね。



こちらは、全国何処でも見られる警察の蓋。でも、梅坪だよ。こちらはそれ以上に地味だよ。杉綾織の独特のものだ。これも以前記述したとおりです。

静岡県:三島



三島にあったものはあまり絵的ではなかった。

この汚水のマンホールも四駆の車に用いられるマッド・テーレンと呼ばれる泥濘を走る専用タイヤのラグ・パターンに似ています。

人がこの蓋の上で滑らないように、逆に蓋にパターンを刻み、転倒事故を減らそうとしているのかな。



これは旧電電公社の地下洞道用の蓋です。

目新しいものではありません。残念。

まっ、三島にあったものだからということで、拾ってきたものです。

変哲も無くてすいません。



この制水弁も普通です。普通っ！普通っ！
横浜のに似ているなあ？
これもコレクションですから…。

静岡県:熱海



これ、熱海の駅前にあったもの。図柄は何の変哲もないものですが、真ん中のマークが温泉マークです。梅も有名ですから、梅鉢紋の中に温泉マークがあるのです。

熱海は梅とか桃とかの地名が多いよ、桃山町とか、梅林が丘、梅園町、梅花町、桜木町などなど。



でも確かに湯治に来たお客さんは、このマークを見て「えへへ…」って和むかも。

この蓋は下水ですが、下からもくもく湯気が出てきていましたよ。

温泉じゃんってな感じです。

出来ればもう少し何か凝った図柄が欲しいな。



熱海に敷かれているガスの蓋です。やはり注意を促すため、周りに色を入れてますね。他の蓋と区別をさせるためでしょう。

ガスは比較的浅層埋設なので、特に注意が必要なので色を付けているのではと思っています。



はい、熱海でも昔のままの電電公社の蓋が使われています。

相変わらずの全国统一のデザインです。え～、大したコメントはありません。

まあ、コレクターとしてのコレクションですから、コレクション。(^.^)



熱海のガス、さっきのもの比べると小ぶりのものですが、下の水道栓のものと大変よく似ています。

緑の塗装はガス色なのかな。もしかして全国统一されたルールなのかも…。



緑と水色との差はあれども、水玉模様は同じです。デザイナーが同じ人？コンセプトが同じですねえ。

上のもの比べると、小丸、銘盤、鍵穴が揃ってます。ふ～ん。

神奈川県:小田原



まあ、小田原はマンホールの蓋の種類が結構豊富でした。本当は小田原少年院の建物が凄いレトロでよかったので、職員の方に撮影してもよいかと頼んだんですが丁寧に断られました。やはり、誰かが写っちゃたりするとプライバシーの問題が出るのかな。いつか、こっそり撮っちゃいたいと思います。

悪用しませんから…。(由佳ちゃんを騙し、すっぴんを撮影したうさお、信用なら無いぞ。)





小田原は城下町。鶴岡と同じように面白い図柄が沢山あるのではと期待していましたが、あれっ、余りないぞ。

しかし、そこは歴史の街、蓋の種類は多くマニアの心をくすぐります。(どんなマニアだろう?)

この消火栓は、珍しい三角形の二つ蓋で咄嗟の時に直ぐ開けられるように考えられた工夫の跡でしょうか。



小田原市のマークは同じですが、昔ながらの汚水の蓋で、横浜の蓋と同様に幾何学的な文様になっています。

マンホールの蓋は幾何学的な図柄が多いですが、これは設計者が土木出身の技術者が多いのか、数学者が設計に携わっているのか?面白い命題です。

最近の傾向では、御当地の特色を生かした図柄のものが増えてきています。



漸く図柄っぽいものが出てきました。小田原城にお姫さまを乗せた輿を、海に漕ぎ出している図柄です。何を意味しているのか良く判りません。珍しい円の中の丸蓋です。この中の蓋だけを小蓋として使っているものもありました。



四角い蓋は雨水枡のもの。扇に松、梅、波を表わしています。何で竹じゃあないんでしょう?

これも故事が良くわかりません。小田原に海は付き物のようですが。



量水器の蓋ですが、これにも小田原市のマークは付いていますが・・・。

デザイン的には面白くありませんが、まっ、コレクションのひとつです。



これらは小さい蓋たちですが、真ん中のものには鰻だか、鮎だかが泳いでいます。和んじゃいますねえ。こんな形のお饅頭があったけっ。仕切り弁 100 はデザイン的には熱海のものによく似ています。

お役所同士互いに視察して、右に倣え的に似せちゃうのかなあ。。。

この小田原の街道沿いにあった「裏組」の碑、裏に「この地は、持筒（鉄砲隊）や持弓（弓隊）の人達が住む組長屋であった。地名の由来は甲州道筋の御組長屋を「表組」と呼んだのに対し、これと対象的に「裏組」といった。なお、明治以降は「海町」と呼ばれるようになった。」とあります。



神奈川県：平塚市・二宮



まずは消火栓からです。少しデザインが古めかしいです。円の中に両替商のマークのような小判型の文様を収め、黄色の色を入れて消火栓にしています。この図柄を踏襲しているのが下の蓋です。

この図柄を記憶して置いてください。



こちらの消火栓の蓋は、同じく小判型のコンクリート蓋です。大変チープなところが二宮っぽいところです。（いませんよね、二宮に関係している人は・・・）これも周りを黄色で囲い、消防用水を表わしています。



で、これがメインの消火栓のマンホールです。図柄はカンナか何かの花に、多分銀杏の葉っぱ、夕陽に鶴と波模様です。二宮町の町の花がカンナなので、図柄もカンナであろうと推測したのですが、百合かもしれません。どちらかと言えば、百合っぽいですね。

この図柄も覚えて置いてください。



ねっ、これは仕切弁のマンホールなんですけど、デザインは消火栓と共通で文字のところだけ書き換えています。地に落とし込んである色も青にしているだけですし、コスト縮減ですね。尤もこれらの蓋は神奈川県水道局のもので、図柄はまた違う意味があるのかも知れません。



これはまた違うタイプの仕切弁のもので、年代的には上のものより古いと思われます。しかし、鍵穴二つ、取っ手が付いているなど、セキュリティ、機能的には今のものより優れています。



さて、このマンホールの蓋はどう表現したらよいのでしょうか。全体的に青みが掛かっていますが、これといって特徴もなく、魚だったら青武鯛（沖縄ならアオブチャーと呼ばれる。真鶴半島の三ツ石あたりで良く釣れるよ。）です。

いささか不気味だよね。



「my Town Ninomiya」と書かれ、何かの花があしらってある汚水の蓋です。数が少ないようで、ここ一箇所だけで見かけました。これの図柄のストーリーも知りません。何方かご存知でしたら教えてください。

この花はカンナじゃあ、ありませんよね？

つつじ？ 椿？



この2枚の蓋には、「電」と書いてあります。東京電力の蓋だと思われます。

地下埋設の洞道を作り、電話線や電力線、ガス、水道などのライフラインを集約する構想が、10年位前に盛んでしたが、今はどうなっているんでしょう。鶴見のマンションに住んでいたときに、前の道路に洞道が造られ、綺麗なお姐さんが石貼り工事の若い衆を監督していました。格好良かったなあ。



しかし、デザインは両方ともいただけません。日出彦さんのお眼鏡には決して合わないでしょう。

だから美的蓋の仲間には入れてもらえないと思いますよ。



さて、この二つの蓋はある意味珍しいものです。「基準点」と書かれているものは、平塚市の一等水準基準点の水準鋸がこの中に収められています。

片や「制水弁」と書かれているもの、字が読めません。多分、「弁」の旧字でしょう。

年代物です。戦前のものでしょうね。

神奈川県:平塚市内



最近、良く見かける蓋で、流れ星(笑:失礼、七夕の飾り)にピラミッド、波に「平」を円形にデザインした文様です。

これが管理上、進化しているのは施工年月が判ること、地域が判ることです。また、方位を表わしてある「N」も示されていますが、別に北を指している訳でもなさそうです。



正統派の消火栓の蓋ですが、気になるのは「消防井戸」、「平塚市消防本部」と書かれている文字の「井戸」のところですよ。

以前の平塚市は消火栓ではなく、このような消火に用いる井戸が随所に掘られていたのでしょうか。

(まあ、その当時は平塚も田舎だったでしょうけどね…)



平塚は「七夕祭」で有名なところ。図柄は湘南の海にかもめにヨット、七夕祭りに賑わう人々が描かれています。

下の方に「うすい」(雨水)とひらがなで書かれているのがご愛嬌です。

これは比較的判り易くて納得です。



この蓋は昔のものですが、平塚市のマークが入っているの、それほど古くは無いのかもしれませんが。

盤面に「S」の字がありますが、「南」ってことじゃありませんよね。これだけで製作者の意図を汲むのは難しいです～う。



覚えていて頂けましたでしょうか？「二宮の消火栓」で使われていたデザインとまったく同じもので、代わりに「仕切弁」と書かれています。

う～うん、皆様の記憶力を試すためのクイズでした。ふっ、古畑うさおでした。

下の蓋は「バルブ」(何の弁なのでしょう?)と「七夕マーク」の汚水管の弁、それに「平塚ベルマーレ」のマークかなあ？



神奈川県:藤沢市



藤沢市だけに、藤の模様があります。下り藤で内藤家の家紋です。

一見すると、葉が藤っぽくないので南洋の木にも見えますが、cacco に言ったら言下に否定されてしまいました。



これは大変おめでたい松の図柄です。三階松ならぬ四階松だね、これは。

藤沢も江戸時代は宿場町、東海道の松並木をイメージしたものかもしれません。

もしかすると、これ以外にも植物紋の蓋が存在するのかもしれないな。



排水溝の蓋はグレーチングに藤沢市のマークが入ったもの。

神奈川県:綾瀬



綾瀬市は日出彦さんが住んでいる街。なので、ひとつだけにします。

五重塔に何かの植物(金のなる木に似ているが違うだろうな...)、桜に見えるが斑点と雄蕊から百合かな?、星に惑星で宇宙のカオスを表わしているかのよう。五重塔は何処だろう。以前日出彦さんがレポートしていた海老名のものかな。

神奈川県:江ノ島



江ノ島って鎌倉市なのかな、藤沢市なのかな? 藤沢市のような気もする。

あっ、マークは藤沢市のものだ。藤沢市の四階松だ。島の旅館街の中を辿っていくと、色付きのものがありました。



これもさっきの下り藤の文様。これだとはっきり、下がっているのが藤の花だってことが判ります。

藤色だもんね。

島の中は錆びるのを恐れてか、コンクリート蓋に彩色を施した小蓋をあしらったものでした。



淵野辺は相模原市の中にあります。昔は日本陸軍の弾薬補給庫でしたが、今は米軍の補給基地になっています。電車から見ると土塁が高く築かれているので、弾薬庫なんだろうなあって思っています。

ここには米軍の軍属も生活していますが、一時トマホークなどの巡航型ミサイルも格納されていたとか、核弾頭も秘密裏に保管されていたとか、兎角の噂で怖くないのかなあって思いますね。



淵野辺の住民の方のほうが怖いか。

上のものは多分、アジサイをイメージし下のものは木の葉が落ちる木をイメージしていますって、そのままじゃないか。

でも、メルヘンチックです。



この模様が良くわからない。下の葉っぱがあり、上に軟骨の串焼きがあるようだ。

サルビアって言いましたっけ？小学生の頃、赤い花の部分を取ってちゅうちゅう吸うと、甘い汁がほんのり感じられた花は…。

市の模様は鳥が飛んでいるように見えるけど、相模原の「S」という字をデザインしたのか？あれっ、「S」の字の向きが逆だな。

今まで、だらだらとマンホールの蓋をお見せしてきましたが、息が切れたのでこの辺で勘弁してあげます。ふ〜う。鉄道の信号屋さんが私の趣味を知り、調布市のマンホールの蓋を地図入りで送って来てくれました。そこに行って撮って来なさいということらしいです。それなら電子ファイルで下さい。

調布に行ったことにして、データをストックしちゃいますから。

またまた余計な注：

帝都防衛ライン: 富津・観音崎をむすぶ帝都防衛ラインは、江戸幕府の時は外国船打ち払いの砲台として、明治政府の時は更に沖合に第一、第二、第三海堡、お台場を築いて造ったものです。

「トマソン隊富津砲台」に詳しく記述しています。ここは閑静な喫茶店あり、観光案内を配る一膳飯屋さん在大変和む処でした。

「第二海堡」「猿島」は、Cacco、グリコの取材で「随道編」に述べています。



富津砲台跡